

第3回 学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年2月21日（金） 午前10時から正午まで
- 2 会 場 吉田特別支援学校 会議室
- 3 参加者

○委員

藁科 知行 様	駿遠学園管理組合園長
山田 浩昭 様	浜松学院大学教授
木村 祥吾 様	木村飲料株式会社 常務取締役
桐田不二雄 様	吉田町片岡区自治会長（欠席）
畑 和幸 様	P T A会長

○学校職員

校 長 伊藤 聖子	副校長 松本 比呂美	事務長 土戸 美樹
教 頭 鈴木 淳也	分教室教頭 杉本 友紀乃	小学部主事 和田 加恵子
中学部主事 菅野 圭	高等部主事 田中 康暁	肢体訪問統括 安池 郁乃
教務主任 松浦 ゆか	コーディネーター 岡本 広美	進路指導主事 野田 清志

4 議事録 *司)司会 委)委員 学)学校職員

(1) 校長挨拶

着任から1年を迎え、今年度の取り組みを振り返り、来年度に繋げていきたいと考えている。学校の様子は、感染症が流行しているものの、学校内での感染拡大はなく、職員の環境整備や保護者の健康管理の成果が出ていると考えている。年度末を迎え、先日、小学部・中学部の入学者説明会を行い、高等部の入学者選考も無事に終了し、新入生の準備を始めている。映像も準備しているので、一緒に振り返りをお願いしたい旨をお伝えした。

(2) 報告

【駿遠分教室令和6年度コミュニティスクールとして成果と課題】

・分教室は、地域とのつながりを大切にしており、様々な交流活動を行っている。具体的には、他の学校との交流、地域の方を招いての音楽会、Zoomを使った交流、運動会、福用駅の清掃、学習発表会などを通して、子どもたちは地域社会との関わりを深めている。

【本校 令和6年度コミュニティスクールとして成果と課題】

・ボランティア先生との学習では、小学部が和太鼓、鰻について専門家から指導を受け、学習意欲が向上したこと、高等部では、農工班、肢体訪問部で、それぞれ専門家から指導を受け、学習意欲が向上したことを報告。高等部の地域作業では、小山城や図書館などの清掃活動を通して、生徒の挨拶やコミュニケーション能力、責任感が向上したこと、吉田町役場や公園などの清掃活動を通して、地域の方々との交流を深めたこと、片岡会館や松本印刷での作業学習を通して、就労に向けた意識を高め

た活動が評価され、静岡新聞の「ふるさと貢献賞」を受賞したことを報告。交流活動では、居住地校交流を毎年1〜2回、地域の学校と交流し、生徒同士の親睦を深めた。学校間交流では、他の学校との交流を通して、お互いの学校について理解を深めた。地域施設との交流では、特別養護老人ホーム「ひまわりの家」との交流を通して、生徒の思いやりや気遣いの気持ちを育んだことを報告した。成果と課題についても報告した。

【令和6年度進路指導の状況】

- ・分教室中学部5名と本校中学部13名、高等部26名の進路先について具体的に報告を行った。

(3) 協議

【令和6年度学校経営自己評価と学校関係者評価】

ア 本校の説明

3つの柱「安心安全」「授業」「連携」に沿って報告した。安心安全では、教職員の人権感覚が高まり、児童生徒の見本となる行動ができた。教職員・保護者ともに、安心安全な環境が提供できていると評価した。危機管理の視点では、トラフ地震臨時情報発表を受け、危機管理マニュアルの見直しと防災訓練を行った。業務改善に取り組んだが、改善の実感がない職員もいた。人間関係は良好であることを伝えた。授業では、授業力向上について児童生徒自身が考え判断する授業ができたこと、個別指導計画では児童生徒の実態に応じた指導計画を作成できたこと、教育課程では小中高のつながりを意識した指導ができたことを伝えた。ICT活用では、ICT活用事例を共有したが、教員間の活用度に差があったことや高等部ではBYODを導入したことを報告した。スポーツ文化芸術では、劇団による鑑賞会を実施したことを報告した。連携では、進路だよりや学習会などを通して情報提供を行いました。保護者からは更なる情報提供の要望があったことや特別支援コーディネーターが中心となり、校内外の関係機関と連携した生徒指導や進路指導を行ったことを報告した。各項目において概ね良好な評価を得ましたが、ICT活用やキャリア教育、共生社会の実現など、工夫の余地があるとの意見があった。

イ 質疑応答

委) 学校側の自己評価は厳しめである。しかし、これは現状に満足せず、常に改善を目指す姿勢の表れでもある。PR方法については、生徒の意欲を高める上で非常に重要な要素だと考える。現在、町の広報誌や学校だよりなどで情報発信を行っているが、今後はより効果的なPR方法を検討していく必要がある。

委) 学校の評価は全体的に厳しく感じた。特に連携に関わる部分はA評価でも良いかと。防災面では、備蓄量や不足物資の見直しが必要だと感じます。

委) 先生と生徒の良い関係性を感じました。自己評価は厳しすぎる印象です。B評価やICT活用など、もっと高く評価しても良いと感じました。対外的なPRは重要です。卒業生の活躍など、積極的にPRすべきです。

委) 昔の学校と比べて変化を感じました。ボトムアップの思考を大切にしている点は良いと思います。トップダウンの面も課題として認識されている点は好感が持てます。業務改善の評価は厳しすぎるように感じます。デジタルの意味を再確認し、活用していくことが重要です。費用や格差の問題など、デジタル化には課題も多いです。家庭との連携を明確に示しても良いと思います。

家族支援やソーシャルワークも重要な役割です。

学) いただいたご意見を参考に、生徒がより意欲的に活動できるような PR 方法を検討し、実行していきたいと思います。

ア 分教室の説明

本校同様、学校自己評価は3つの柱「安心安全」「授業」「連携」に沿って報告した。「安心安全」の他者との良好な関わりを築くための教育活動では、教職員の人権感覚向上に努めた。研修やチェックリストを通して教職員の意識を高め、ほぼ100%の目標を達成した。児童生徒の安心安全な教育環境整備では、危険予知トレーニング(KYT)の実施により、あらゆる状況を想定した対応が可能となり、100%の達成率を達成した。働きやすい職場環境づくりでは、文書処理の効率化やICT支援員の活用など、改善がうまく進まなかった点があり、82%と低い達成率となった。「授業」の学習指導要領に基づいた授業力の向上では、児童生徒の主体性を重視した授業計画を立て、96%の目標を達成した。個別指導計画については、外部講師の指導を授業に活かすなど、効果的な指導実践ができた。9年間の成長を見通した教育課程の見直しでは、目標の根拠を明確化し、児童生徒の特性に合わせた授業づくりができた。ICT活用では、教職員のICTスキル向上により、100%達成した。生涯学習につながる文化・スポーツ・芸術の充実では、様々な活動を通して児童生徒の経験を上げることができ、100%を達成した。「連携」の地域資源を活用した実践では、教職員の意識が高く、双方向の交流や成果を求めるあまり、82%という達成率となった。キャリア教育では、中学部のキャリアパスポートを活用し、児童生徒の成長を実感することができた。関係機関との連携では、学園や管理機関との連携を強化し、情報共有を密にすることで、児童生徒の見守りを強化することができた。全体的に高い達成率の項目が多い一方、職場環境の改善や地域資源を活用した学習における教職員の意識改革など、課題として取り組むべき点も見られた。

イ 質疑応答

委) C評価はB評価でも良いと感じた。「連携」の評価がAにならないのは残念。評価基準は厳しすぎる印象を受ける。学園との連携について、改善点があれば検討すべき。

委) 評価は厳しめですが、課題の原因究明が重要。全体的には良い印象。

委) 評価が厳しいと感じる。目標達成率と評価基準の文言にずれがある。保護者の教育への熱意が高まっている。安心安全の項目で、準備不足と感じられる点がある。教職員は、待ちの姿勢ではなく、積極的に学ぶ姿勢を持つべき。評価は厳しすぎる。もっと自信を持って評価をつけても良い。

委) 学校と家庭との連携は良好。課題は組織の違いによる難しさ。学校には学校の枠組みがあり、お互いの理解が必要。教員の負担軽減策として、係の役割見直しを提案。地域との連携は、地域状況に合わせた無理のない範囲で。学校のプログラムは、生徒に寄り添ったものであり、12年間の繋がりを感じられる点が素晴らしい。生徒の成長を支える様々な出会いを大切にしている点に感謝。学校評価は全体として良好。計画作成支援のノウハウを他の学校にも広めてほしい。

(4) 次年度に向けて

【令和7年度学校経営の方向性について】校長から

学校運営協議会の意見を受け、学校側の自己評価の不安定の原因が目標の不明確さにあると反省。

来年度は授業を最優先とし、連携・安心を両立させる学校経営を行う。開校 10 周年を機に、これまでの積み上げを生かした教育活動を目指す。授業では、適切な自立活動目標設定と個別指導計画作成に加え、地域・保護者参加型の教育課程を導入するため、授業時間数を減らし、教員の業務改善を行う。地域との連携を深めるため、吉田町の ICT 教育や高等学校との協同的な学びの場を模索。また、多国籍化や多様なニーズに対応するため、お便りの工夫や通訳を検討している。

